

2015年11月 始まりは、おおい町大島小学校!

小学校 編 195校中、95校に派遣
95校中、複数回の派遣校は、数えきれない

以降 16・17年と派遣されました

2017年 小浜市今富小学校
津波からの避難訓練。1.2キロ先の高台、舞鶴若狭自動車をめざし一気に駆け上がる。先頭は6年生だ!? 1年生では、全員、逃げ遅れるからだ!

2019.10 今庄小学校

2025.4.16 鮎江市東陽中学校

高校 編 32校中 7校
見・知・と気力、行動、備災

中学校 編 74校中 38校へ派遣 複数回派遣校多数あり

2025.6.18 宮崎中学校

特別支援学校 編 特別支援学校 12校中 7校派遣 複数回派遣校多数あり

教職員 編 時流:拠点校方式のグループワーク

あわら市向ヶ丘区 わが区の防災への取り組み（令和5年～令和7年）

項目

- 1.防災組織（1月の総会での確認）
- 2.3役による防火水槽と消火栓の位置確認、除雪
- 3.消防防犯委員と防火推進委員の3名による消火栓の確認、消防ホースや金具の確認
- 4.子供会による交通安全危険個所の点検
- 5.年2回の防災会議と消防訓練、救急訓練
- 6.年1回の避難訓練
- 7.福祉委員会による防災マップ作り
- 8.消防防犯委員と3役による防災Goodsの確認、補充

概要說明

- 例年、1月の向ヶ丘区総会で防災役割を氏名電話番号明記で区民にお知らせする。
日中に災害が起つたらどうする、形骸化したものになつていいかというご意見を鑑みて、作成はしているが災害はいつ起るかわからないので、その組織図が常に有効に働くかはわからない。ただ、災害が起きた時一番大切なことは
自助 自分の家族の安否
共助 近所の助け合い
公助 ①②を経た後3役もしくは青壯年の会のメンバーが区民館または児童公園に集結して、リーダーとして区民の安否確認と救助にあたることは大切なことであり、3役または青壯年の会のメンバーで区におられて①②をクリアしたものの誰かが指揮を執る。そのように自觉もし、区民にも周知している。(向ヶ丘区防災会組織図表参照)

6. あわら市の総合防災訓練に合わせて避難訓練を行う。(昨年は能登地震が正月に起こったので5月の一斎草刈り清掃時に行った) そのあと市の研修会には区長と民生委員が必ず参加する。



7. 当区は令和6年に福祉委員会を発足させた。3ヶ月に2回の頻度で一人暮らしのお年寄りを訪ねてのお見舞い訪問、区長と民生委員による障害を持たれている方への見守り、年配の方々による同好会が3つ存在しているが、その会への補助を行っている。



昨年に引き続き、今年も防災マップ作りを社会福祉協議会の方の指導の下作成し、区民館に掲示した。これは災害が起きたときに、年配の高齢者を福祉委員会のメンバーと班長で救助しようという盤上の避難訓練である。高齢者の見守りと災害時の救助依頼を、その方が属している班の班長へ年度初めに通知、依頼してある。

あわら市花乃杜四丁目向ヶ丘区 区長 南 良一

2. 1月の中旬の総会を経て、1月の最終日曜日に区内5ヶ所ある防火水槽の位置とポール点検、雪が積もっていたら除雪。消火栓に関しては24ヶ所の消火栓に関しては位置の確認。

3. 月中旬3名の方には消火栓の位置確認と、消火栓ボックスを開けていただいてホースにはこりがないか、金具に錆がないか点検し報告していただく。第1回防災会議に報告していただき、占いものの購入等を決める。



4. 8月、道路並びにカーブミラーそして歩道に危険物が放置されてないか点検報告していただく。第2回防災会議に報告。緊急なものは市役所、警察に修理依頼。
5. 每年4月下旬と8月下旬に3役と防災顧問、民生委員、防災救護班員、青壯年の会会長に集まって頂き、3と4の報告並びに消火訓練、救急講習について語る。その他防犯に関して意見を述べ合う。



8. 防災倉庫には非常食をはじめ水、発電機、毛布、その他救急で必要な工具等、そして昨年は、簡易トイレ22 テント10張り1000人分の固体物とビニールをそろえた。まずはこの平地で困るのはトイレであると考え、あわら市との補助金を活用して、多少であるがそろえた。200世帯530名あまりの人が暮らすが、備蓄食料は、各世帯に1食分水も1.5L分しか備蓄していない。トイレ含めて、1晩分の備蓄である。この現状を区民に周知し、とにかく各人が日頃から災害用備品を手元においてほしい旨を伝えてある。



【まとめ】

以上、どの区でもやっている通常の防犯体制であろうと思うが、年間を通して、日頃から注意を払っているというところがわが区のいい点であろうと思っている。災害はいつ起こるかわからないので、防災組織を組んでも、災害時にこの区にいるどの方がおられるかわからない。1で述べたが、防災組織図に書かれてあるメンバーはリーダーになるという意識を持って、区民を指揮し安心を持っていただくことが肝要と思っている。

また、本区では、防災行事を行うときは必ず、事前に3と5で述べたように防災会議を担当者で持っている。点検の報告をしてもらうとともに、防災行事に当たっての留意事項を確認し、その他区の防災に関する一般的なことの意見交換を行っている。区民の防災意識は高いと認識している。

その他、この区には、「夜回り隊」という区からは独立して不定期に「火の用心」と掛け声をかけて区内を巡回してくれる団体がある。区から干渉されたくないという方々であるが、非常にありがたい存在である。

JA共済連福井本部長賞

あわら市向ヶ丘区

松岡御陵地区防災訓練(松岡御陵自主防災組織連絡協議会)

◇訓練概要

訓練日：令和7年6月8日(日) 午前7時～午前9時30分

災害想定：風水害での警戒レベル4相当

内容：午前7時のサイレン吹鳴で訓練を開始。初めに区民は、班毎に安否確認(無事旗の確認)後、区内の一時避難場所に集合してから指定避難所である御陵公民館に避難。参集後は、地区毎に受付を行い、会場内を5つに分けて訓練等を実施。

(地区訓練) 避難訓練(安否確認) (全体訓練) LINEによる避難所受付
① 心肺蘇生法訓練 ② ドローンによる情報確認 ③ 濃煙体験・防災グッズ紹介
④ 放水訓練(耐震性貯水槽) ⑤ 給水訓練

◇地区の特徴と訓練内容

御陵地区は九頭竜川の右岸に位置し、洪水ハザードマップでは全域が浸水区域内で、毎年、この時期に防災訓練を実施している。今年度の訓練は、通常の心肺蘇生訓練の外に濃煙体験や災害協定を結んでいる地域の日本商運㈱からドローンによる災害情報収集方法、耐震性貯水槽を活用した御陵消防団との放水訓練および給水訓練など住民体験型訓練を行いました。

◇訓練の成果

当日は、区毎の避難訓練に約350名が参加し、自分自身や家族、区民全体の安全を確認した後、公民館に100名が参集した「来て・見て・体験できる」住民体験型の訓練では、自分でできる防災活動を再確認することによって地域の防災力の向上が図られた。

(受付)



(訓練説明)



(心肺蘇生法訓練)



(ドローン)



(濃煙体験)



(耐震性貯水槽を活用し放水訓練)



NHK福井放送局長賞

松岡御陵自主防災組織連絡協議会(永平寺町)